

第3回北陸圏広域地方計画有識者懇談会

平成27年11月11日(水) 14:00~17:00

於 石川県文教会館 4F 401・402 会議室

1. 開会

2. 挨拶

(藤山 北陸地方整備局長)

- ・ 広域地方計画は国土交通省が主体となって策定しており、国土交通省の事業としては、防災・道路・港湾・空港・鉄道・まちづくり分野が主なものとなるが、地域づくりを進めるにあたっては、教育・福祉・農業・商工業・経済全般・人材育成・環境といった様々な分野の方達からも意見を頂いて、北陸の10~20年の方向性を打ち出すことで、一体感をもって取り組みたい。
- ・ 各分野における、どこまで・何をするとといった具体的な記載については、予算の裏付け等もないため、皆さまにご協力頂き、関係機関との連携を図って、全体として方向性を持って進めていきたい。

3. 議事(進行:山崎座長)

(1) 新たな「北陸圏広域地方計画」に係る説明

- ① 策定スケジュールについて
- ② 中間整理について
- ③ 広域連携プロジェクト(骨子)について
- ④ 具体的な戦略(イメージ)について

(2) 意見交換

新たな「北陸圏広域地方計画」に係る説明に関する質疑

(委員)

- ・ 「日本海国土軸」に実質的な意味はなく、日本海側の全地域が一体となって何かを行うことは無理があると感じている。資料-3にはまだこの言葉が残っているようである。

(事務局)

- ・ 地方公共団体と議論していると、「北陸新幹線」とともに「日本海国土軸の形成」というキーワードが出てくる。関係機関の強い要望もあり、全てを除くのは難しい。

(座長)

- ・ ある年齢以上の人には、頭の中にこびりついているのではないか。しかし、新しい概

念を打ち出したのであれば、それに統一するべきではないか。

(事務局)

- ・ 東北圏との連携（高速道路がつながっていない）の意味合いでも、この言葉が使われている。

各委員からのご意見

(委員)

- ・ 女性の社会参加については、家族の中の意識改革が十分ではなく、男性の意識の部分がまだ弱いと思われ、特に子育てに関する意識強化が必要である。
- ・ 物流については、関東に福井の食品を提供する飲食店を展開しているが、産地が福井のものではなく、石川のを仕入れている実態がある。隣県だが、物流面で格差がある。中部縦貫自動車道の整備をぜひ推進してほしい。
- ・ この計画の策定後もそれぞれの関わり合いを掘り下げる形の部分に携わっていきたい。

(委員)

- ・ 障害を持つ方達がいきいきと生活できるようになってきている。オリンピック・パラリンピック等の国際大会会場において車いす席を設置するとともに、障害のある人たちの会場へのアクセス等の環境整備を行うことが、高齢者がアクティブに活動できるまちづくりにつながる。
- ・ 福祉や医療の分野だけでなく、ビジネスになるので産業という観点も含めて整備を進めていく必要がある。

(委員)

- ・ プロジェクトを実際に動かしていく仕組みが必要。各プロジェクトを誰がやるのか、どのように進捗を図るのか、予算措置や体制構築を含めた具体策が必要である。

(事務局)

- ・ 現行の広域地方計画では、毎年フォローアップを実施している。どのレベルまで詳細に行うかは議論が必要である。
- ・ 計画を進めるためには行政だけでなく、産業界・学界・金融界との連携が必要である。

(委員)

- ・ その土地の歴史、成り立ちなどを学ぶ旅行や参加型観光・体験型観光のニーズが高まっている。観光ルート上や観光地にお金が落ちないと持続しないので、産業的な視点での仕組み作りや人材教育が必要である。
- ・ この分野では中部圏が先行しており、その点からも中部圏との連携が重要である。

- ・ 富山県には工業技術センターがあり、北陸新幹線開業後、首都圏の大手企業からの来場者が増え、3割程度が県外客のようである。この機会を生かし、視察だけで終わらせるのではなく、地元企業との連携が生まれるような場となれば良いのではないか。

(委員)

- ・ 能登の集落など、高齢者が多く公共交通が発達していない地域では、どうしても歩いて暮らせない地域もある。金沢大学では、こうした地域を支える自動運転システムの研究開発を進めている。導入までの課題は、法制度や事故が起きた場合の責任の所在等がある。課題はあるが、導入に向けた検討は必要だと考える。
- ・ 先日の新聞で、暫定2車線道路の事故率は、片側2車線の4車線区間に比べて何十倍にもなるという記事があった。ヨーロッパでは、片側2車線どころか3車線が標準といっても良いくらいである。国土交通省が4車線化を積極的に進めるべきではないか。

(事務局)

- ・ 自動運転はまだ課題が残されていると認識しており、どこまで書けるか検討させていただきたい。

(座長)

- ・ 自動運転は、法制度さえ整えばすぐにでも導入できるくらいのレベルまで来ている。金沢大学は、欧米と比肩するレベルである。5年後には当たり前になっているかも知れないので、計画に何も書いておかないのはまずいのではないか。
- ・ 交通事故を防ぐには、まちなかの歩行者と車道の分離も必要である。

(事務局)

- ・ 4車線化については、最終的には経済的な問題と考えている。まずミッシングリンクをつなぐことが優先で、バランスを取りながら進めている状況である。暫定2車線で供用している道路も、4車線化を想定して用地買収を進めている。

(委員)

- ・ 富山県は空が広く星空がきれいなので、星空が観光資源とならないか。
- ・ ウィーンでは、1,000年前の建物が残っており、古いものと新しいものがうまく活用されている。トロントでは、自家用車がいらなくらい公共交通が発達している。そうした外国の良い事例を参考にしようか。
- ・ 地熱エネルギーにおいては、富山県は国内で第二位の埋蔵量がある。これを利用して水素エネルギーの生成に活用していくことも考えられており、そのエネルギーを運ぶための道路整備もお願いしたい。
- ・ 海水にはマグネシウムが含まれている。これは、有望な金属材料であり、これを自給

自足し、産業につなげていく事ができれば北陸の強みとなる。

- ・ 北陸に気候に応じた防災技術について、踏み込んだ記載がほしかった。地球のダイナミズムをわかった上で防災というものを考えたら良いのではないかと考える。

(事務局)

- ・ 新しい視点の提案を頂いているので、どのような形で盛り込めるのか検討させていただきたい。

(委員)

- ・ 北陸ブランドに統一するのではなく、それぞれの地域のオリジナリティを出し合っ、それらをネットワーク化するのが良いのではないか。
- ・ 金沢と富山は歴史的にもつながりが深い、福井は取り残されている感じがする。圏域内の交流を進めていくことをもっと考えてほしい。
- ・ 福井の歴史・文化に関する情報発信を行っているが、地元あまり知られていない。人材育成のためにも、地域に対してプライドを持つことのできる教育が必要ではないか。
- ・ グローバル化・国際化は速く進んでいる。リバースイノベーションを活用した戦略をいれ込むことも重要ではないか。
- ・ 福井県の企業に取引先を聞いたところ、150社の回答の中で、大阪と答えたのが18%。中京圏や関東圏が5%であった。中部縦貫自動車道を早期に整備していただかなくては、中京圏の自動車産業との関係も深まりにくい。

(委員)

- ・ 働く女性のための制度を整備するのは当然だが、一企業ではできないのが地域の女性のネットワークである。Iターンなどで定着した若者はそもそも三世帯同居ではない。そうした人とのネットワークをどう作っていくかが課題である。
- ・ また、仕事を優先して子育てを行う人達は地域とのつながりが希薄になりがちで、何らかの対策が必要である。子育てをしている女性が「自分だけが辛い」と感じてしまうことがある。
- ・ 理科やものづくりの面白さを子どもたちに教えるプロジェクトを進めている。
- ・ 多くのものづくり企業は、高卒人材を活用している中で、人材をどう確保していくかが問題となっている。高卒でも大卒でも良いが、ものづくりの現場で働く道をどう作っていくか、企業だけでなく、行政も含めて取り組んでいく必要があるのではないか。
- ・ 地元企業としては地元の港湾である金沢港を使いたい、船が来なければ活用できない。県ごとに戦略が異なるのかもしれないが、港湾ごとに特色を打ち出すことが企業にとっても使いやすくなるのではないか。

(座長)

- ・ 専門学校が高等教育機関化し、専門学校か大学へ全入ということになるかも知れない。働き手を確保するためには、まず女性、次いで高齢者、質の良い外国人である。
- ・ 20年後にはアジアが経済の中心となっている可能性がある。国際物流については、長期的な視点で検討してほしい。
- ・ 金沢などの大きなまちでは、働く女性のネットワークができていますが、地方部はまだ整っていない。

(事務局)

- ・ 国際物流については、北米航路のことを指しているのではないかと思われるが、まだ先が見えない状況である。

(委員)

- ・ 北陸では都市の周りに豊かな農村があるので、これらのつながりをうまく記載してほしい。
- ・ 能登と若狭の都市にはない価値を伝えるため、教育旅行で農山漁村を訪れる等の取組が活発化することが重要である。
- ・ 市町村自身で良い政策を立案できるように、住民と市町村の政策担当者と懇談会をもち、そこに有識者を交えてほしい。

(事務局)

- ・ 住民・行政担当者・有識者の話し合いの場については、検討して参りたい。

まとめ(座長)

- ・ どの自治体の総合戦略も人口予測を踏まえて様々な政策を検討している。その目で見ると、人口問題に関する分析がやや弱いと感じる。
- ・ メガソーラーは、政策の失敗だったかも知れない。電気を買い取れないという話にもなり、日本中がパネルだらけで維持管理が懸念される。メガソーラーは解決策ではない。
- ・ 観光客の受入は適度なスピードとする必要があるのではないか。急激な受入を行うと生活用品まで全て買い占められている等、地域が困惑していることもある。

「北陸圏広域地方計画を推進するための方策等について、先生方の専門分野等からのご提案」に関するご意見やご提案

(委員)

- ・ 広域地方計画は対象が広いため、横の繋がりを意識して検討するべきである。

(委員)

- ・ 現状を見える化し、目標を共有化して、一般市民や企業も含めた意見が出やすくすると良いと感じている。

(委員)

- ・ 連携施策の具現化に向けて、最もフラットなポジションを維持できる「学」が中心となり、広域地方計画協議会と連携して進めるのが良いのではないかと。

(委員)

- ・ 社会実験の場所として特区を設定し、短期間のPDCAを回してみてもどうか。

(委員)

- ・ 研究は限られた予算・期間の中で研究を進め、その後自活していく必要がある。地方公共団体でも今後は同じ状況になると思われる。事業予算をつけてきっかけ作りを行ってどうか。

(委員)

- ・ 地方自治体ではエリアが限られてしまうので、広域で観光業を進めていくには、民間が中心になって行うことができるようなサポートが重要である。
- ・ また、地域を引っ張っていく人材が必要なため、地域リーダーの育成が必要である。ハード的なインフラ整備も必要だが、企画能力をどうサポートしていくかを考えていかないと、観光がビジネスまで成長するのは難しいと考える。

(委員)

- ・ 立山や白山の火山リスクは入れなくて良いか？
- ・ 一つのプロジェクトに対して一つの指標で進捗を管理していくのは難しいと思う。テーマは狭く、地域は広く連携していくことが重要である。基本的には民間が主体となると良いと思う。
- ・ 事業について、「補助金があるからやる」という側面もあるが、自主的に継続可能かという観点を考えることが重要である。

(委員)

- ・ 連携はだれが音頭をとるかという問題がある。ビジネス化して続けていく仕組みづくりが必要ではないか。
- ・ 圏域ごとに共通してできるものをそれぞれが取り組むのではなく、まとめることで効率化を図るような圏域間の連携ができないだろうか。

(委員)

- ・ 地域や住民まで成果が落とし込めるように計画を進めて欲しい。

まとめ(座長)

- ・ プロジェクトを実現するために、ワーキンググループのような検討母体で産官学が参加する体制はどうか。その際、プロジェクトの担当部局を明確にする必要がある。
- ・ 地方創生を実現するためには、様々な分野を統合した機関が必要ではないか。
- ・ プロジェクトの実現には二段階あると考える。実現性のあるプロジェクトに整理する事と予算取りである。

(委員)

- ・ 広域地方計画を進めるにあたって、タイムラインと各関係機関のマトリックスを作成してはどうか。

4. 閉会

(大野 北陸信越運輸局次長)

- ・ 皆さまから頂いたご意見を踏まえて、より良い計画を策定できるよう検討を深めて参りたい。